

別紙民会規則相廻シ候条、左ノ区々騰写シテ速ニ御順達可
被成候也

八年(欠) 月廿五日

会 所

八小区
三小区
二小区
一小区

大分県教育センター研究部長

編集後記

「地方の時代」ということがさかんに言われていますが、明治以後の近代の地方の歴史は中央の動きを無視しては考えられません。そのような意味で中央からの通達、報告などを県内の史料の中から求め、さらにそれを裏づけるためには中央での史料が必要となってきます。中央集権化の進む中で同じようなことが、県と市町村との間でも適用されるわけです。末広利人氏の論文は、従来殆ど解明されていなかった、とかく遅れの目立っていた大分県の交通運輸問題を取上げて、その近代化の過程を追求した貴重な研究です。次に村上勉氏は卒業間もない新進気鋭の学究の徒で、江戸時代から専売にもとりあげていた七島蘭の明治期における生産販売ルートを史料をもとに詳細に究明した力作で、氏の今後の御活躍を祈ります。加藤泰信氏は戸籍法による大区、小区制実施から町村制施行に至る間の町村合併の状況を調査、分析することによって大分県下のその後の町村の根幹を求めている。白井淳三郎氏は梅園研究に情熱を燃やす研究者で、「価原」の現代語訳などもされていますが、今回は梅園研究の隠れた研究者藤

井專随氏の紹介をしていた。今号にも引続き安部弥右衛門氏の羽出浦の民俗についての精力的な研究をのせました。佐藤節氏が紹介された民会規則は、氏の解説にもあるように当時の区民会のあり方を知る貴重な史料であり、明治八年という時期に、このような規則が制定されたということに、新しい時代の地方への影響を伺い知ることが出来ます。もちろん氏がこのような原史料発掘を通じながら大分県の近代史研究に活躍されていることはいまでもありません。なお編者のものは校史編さんの際に発見した史料を紹介して昭和初年の農村地域と教育の関連を考えて見たもので、参考になればと思っています。

(吉田記)

昭和五十五年三月二十五日印刷
昭和五十五年三月三十一日発行

大分県地方史 第九六号・第九七号

編集人 吉田豊治

発行人 渡辺澄夫

印刷人 高井久雄

大分市上野町七番二十五号

印刷所 三恵印刷株式会社

電話 ④〇一二三

大分市且ノ原七〇〇丁八七〇一—

大分大学教育学部国史研究室内

発行所 大分県地方史研究会

(振替下関五二九四番)